

## こども園における自己評価結果報告

こども園における自己評価の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。  
 自己評価の結果を踏まえ、今後の教育・保育の質の向上並びにこども園運営の資質  
 向上に努めて参ります。

**\*対象者 58名**

A: たいへんよい  
 B: よい  
 C: 一部検討を要する  
 D: 改善を要する

項目	内容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
教育・保育理念	(1) 理念や基本方針が職員に周知されているか		○			・理念や基本方針は、保護者に周知できるように、ロビーに張り出したり、入園時重要事項説明書で説明したりしています。基本方針は、月ごとのねらいを決めて、イラストを用いて各クラスや玄関ロビーなどに張り出し、子どもたちや職員にもわかるようにしています。また、基本方針を子どもの発達段階に合わせてどう教育保育に取り入れていくのかを毎月検討し実践につなげています。理念、方針、目標についてはより具体的な話し合いを職員間で持ち、日々の教育保育に取り入れていきます。 ・園児一人一人の人格を尊重した教育保育については、全職員での共通理解ができるように努めます。
	(2) 理念や基本方針が利用者に周知されているか		○			
	(3) 理念や基本方針に基づいた教育保育が行なわれているか		○			
	(4) 一人一人の子どもの人格を尊重した教育保育について共通の理解をもっているか		○			
教育保育の計画	(1) 社会状況や子どもの実態、地域性を考慮し、必要に応じて教育保育課程の見直しを行っているか		○			・教育・保育課程等の見直しは、まず年齢ごとで行ったうえで、入園時から修了までの長期的な視野を持ち、地域とのかかわり、実態等を考慮し職員会で再検討しています。 ・行事については、毎回実施後、子どもの育ちに必要内容や取り組みであるかについても検討しています。日々の子どもの生活や継続する主体的な遊びを大切に考えて今後も見直していくことが課題です。
	(2) 指導計画は、乳幼児の心身の発達を踏まえ、入園から修了までの長期的な視野を持って充実した生活が展開できるように配慮し作成されているか		○			
	(3) 子どもの生活が豊かになるように行事を精選し、子どもの発達を踏まえて、その内容や実施の仕方について見直しを行っているか		○			
子どもの発達援助	(1) 子ども一人一人の健康状態や発育・発達の状態を把握し、職員間にて共有されているか	○				・職員は、園児一人一人の気持ちに寄り添い、優しく温かくていねいに関わり、心身の健やかな育ちを促しています。 ・子どもの生理的欲求を満たし、情緒の安定を図ることを教育保育の基本とし、園児一人一人と個別にゆったりと関わられるよう意識して養護の行き届いた環境づくりを心がけています。  ・食を営む力の育成に向け、栽培活動、親子クッキング、体と食べ物との関係などの栄養指導も行っています。  ・一人一人の子どもが、かけがえのない大切な存在であることを常に心に持ち、信頼関係を大切にしています。また、子どもの「やりたい」という気持ちを尊重しながら、主体性や自己肯定感を高めていけるような環境設定を課題として計画的に行っていきます。  ・1日の在園時間や入園時期、登園日数等が個々によって違いがあることを踏まえ、子どもの心身に負担のないように生活の連続性や生活リズムに配慮しています。夕方以降の時間帯では1日の疲れや保護者のお迎えを待つ気持ちを受け止め保育教諭が個別に温かくかかわることを心掛けています。  ・障がいのある子、加配を必要とする子に対しては、関係機関と連携しその子に合った指導を行っています。年齢相互の共通理解はしていますが、全職員で共有していくことが今後の課題です。 ・小学校への就学がスムーズにいくように、1年生担任と保育教諭が意見交換や参観を行い、計画のもとに年長児と1年生の交流活動を年3回行っています。交流活動が相互にとってよりよいものになるようさらに内容を検討し教育保育に生かしていきます。
	(2) 子どもが安定感をもって過ごし、自分の気持ちを安心して表すことができるよう留意しているか		○			
	(3) 子どもに相応しい食生活が展開されるように、食事について見直しや改善を行っているか		○			
	(4) 子どもが食事を楽しむことができる工夫をしているか		○			
	(5) 子どもが主体的に活動できるような、人的・物的環境が整備されているか		○			
	(6) 子ども一人一人を受容し、理解を深めて働きかけや援助が行われているか		○			
	(7) 健康安全や発達の確保を十分に図り、日々の環境を整えているか		○			
	(8) 子どもが自ら周囲の様々な環境と関わり、発達に必要な体験を積み重ねていけるよう努めているか		○			
	(9) 子ども自身が自分を肯定する気持ちを育まれていくよう、継続的な信頼関係が築かれているか		○			
	(10) 保護者の生活形態を反映した子どもの在園時間の長短、入園時期や登園日数の違いを踏まえ、子ども一人一人の状況に応じた工夫が行われているか		○			
	(11) 障がいのある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、教育保育の内容や方法に配慮されているか		○			
	(12) 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、教育保育の内容や方法、保護者とのかかわりに配慮されているか		○			

項目	内容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
保護者に対する支援	(1)子どもの発達や教育保育などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けているか	○				<p>・各年齢が1年に2回、保育参加(参観)に併せてクラス懇談会を行っています。その結果年々、保護者同士のつながりが見え、送迎時に笑顔で会話する様子が見られます。事後のアンケートを活かして今後も継続し保護者同士のつながりを大切にしていきます。</p> <p>・翻訳、通訳の職員がいることで外国籍の家庭の支援をしています。習慣の違いによって子どもや保護者が孤立しないよう寄り添っています。</p> <p>・毎週5日、地域の未就園児を対象につくしっ子広場を開いています。地域の親子の交流や育児相談、イベントや講演会なども開催し、毎日8~10組の親子が来園しています。地域に密着した子育ての支援を行っています。</p>
	(2)虐待に対応できる園内の体制(医療機関、児童相談所など専門機関との連携)の下、不適切な療育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び予防に努めているか		○			
	(3)地域の子育ての拠点として「こども園の開放」「相談・援助」「交流の場の提供」「情報の提供」の支援を行うよう努めているか	○				
教育保育を支える組織的基盤	(1)感染症やその他の疾病の発生予防に努め、看護師の専門性を活かした対応を図っているか	○				<p>・看護師は子どもの健やかな生活を基盤として健康状態や発育、発達状況の把握、感染症の予防、衛生管理、保護者からの相談など、専門知識を生かした対応を図っています。また、健康増進において子どもへの保健指導や保護者への情報発信を行ない予防に努めています。</p> <p>・アレルギー疾患児への食事は代替えの食材での対応やアレルギー疾患児でない子どもと同じ形態の食品を提供し楽しく食事が出来るよう配慮しています。また、アレルギー疾患児に対する情報は全職員で共有し、誤食のないよう努めています。</p> <p>・安全管理や危機管理のマニュアルを見直し、意識の徹底に努めています。毎月避難訓練を実施し、不審者対策、風水害の避難訓練も年1回行っています。ヒヤリハットにより再発防止策を園全体で共有し、ケガや事故を未然に防ぐようにしています。</p> <p>・全職員が年齢の話し合いやカリキュラム、園内研修に参加できるようにし、学びあい、問題点を挙げ子ども理解に努めています。園内外の研修を通して一人一人がキャリアアップの意識を高めていきます。</p> <p>・職員の人数、勤務時間や職種の違いから、情報の共有が難しく、全職員に伝わっていないこともあり、周知方法をさらに工夫する必要があります。</p> <p>・苦情解決の体制は整っていますが、保護者アンケートより苦情窓口がわかりにくいとの指摘がありました。来年度は玄関ロビーに窓口を置きわかりやすい方法で周知を進めていきます。</p> <p>・園評価(年1回)と自己評価(年3回)を行っています。評価の結果を分析し、改善、計画、実行、評価(PDCAサイクル)を機能させ協働体制を築いていきます。より一層、質の向上と内容の充実に努めます。</p>
	(2)体調不良、アレルギー疾患等をもつ子どもに対し、適切な対応が行われているか	○				
	(3)避難訓練・安全点検・不審者侵入防止訓練等、子どもの安全確保のための適切な対応が行われているか	○				
	(4)地震などの自然災害に対する防災対策は行われているか	○				
	(5)施設長がリーダーシップを発揮し、職員が教育保育の内容の充実と質の向上が図れるよう努めているか	○				
	(6)研修等、教育保育の質の向上を図るべく、自己研鑽への取り組みを積極的に行っているか		○			
	(7)事業計画が職員に周知されているか		○			
	(8)事業計画が利用者に周知されているか		○			
	(9)守秘義務の遵守が全職員に周知され、守られているか	○				
	(10)個人情報適切に取り扱いつともに、保護者の苦情に対し、早期解決を図るよう努めているか		○			
	(11)苦情解決の仕組みが確立され、保護者等に十分に周知・機能しているか		○			
	(12)保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備しているか		○			
	(13)保育教諭等が主体的に自己評価に取り組み、教育保育の改善が図られているか		○			
	(14)評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施しているか		○			

### 施設関係者による評価結果に対するコメント

一人一人の子ども的人格を尊重した教育保育については、共通理解をもってこそ教育保育の計画ができていくので意識して取り組んでいけるとよい。

主体的に活動できるための環境の評価は、職員の配慮、見通し、指導力が備わっていることなので今後を期待したい。

自己研鑽への取り組みは、研修以外にも大会参加、発表、専門書など自分で取り組めるものを決めていくことも大切である。

園評価や自己評価での課題は見つけられているか、具体的にイメージできているか。問題点の改善に取り組んでいけるとよい。

